

突 破

生徒会新聞
第 7 号

令和5年5月23日

担当者：前原 優莉

●明神の舞結成式に向けて

5月24日の6時間目に、明神の舞の結成式があります。明神の舞は、世羅西中学校の伝統文化として、毎年継承されており、先代の先輩方が「100代まで続ける」という思いでこれまで続けてきました。明神の舞は、巫女、演奏、日本舞踊、神楽、和太鼓、息吹踊り、明神ソーラン、ふるさと合唱の8つのパートからなります。それぞれのパートにはそれぞれ意味や役割があり、一人ひとりが自分のパートに誇りを持って取り組んでいます。

この会は、17代目明神の舞を作っていく上で大切な第一歩となります。各パートごとで、取り組む上での目標や大切にしたいことがあると思います。結成式の中で、グループごとにミーティングをします。そこで、それぞれ目標などを共有し、16代目を超えられるようなものを創り上げられるようにしましょう。

●自問清掃について

自問清掃とは、「自主性・主体性を高めること」を目的として、完全に黙って掃除をすることです。掃除のときに「あそこやって」「そこ汚れているよ」などと指示をしていると、自分で気づき、考え、進んで行動することが出来ません。自分で進んで行動ができて

いないと、自主性・主体性を高めることにつながりません。

今の世羅西中学校の現状では、掃除のときに周りの人と話したり、自分で考えて行動出来ていないと思います。だから、「自主性・主体性を高める」ために黙って掃除をしていきましょう。質の高い自問清掃をするために、次の「3つの心」を意識して全員で取り組んでいきましょう。

1つ目は「気づきの心」です。「気づきの心」とは、人に言われてするのではなく、自分で気づいて掃除をすることです。例えばホコリが落ちていたとします。近くの人にやってもらうのではなく、自分が気づいた時点で自分から進んでやりましょう。

2つ目は「我慢する心」です。「我慢する心」とは、私語はもちろん、指示さえもしないようにすることです。私語や鼻歌を歌ったりすると周りの人の心を乱すことになります。指示をしなくても周りの人が気づいて、清掃に集中できるようにしましょう。

3つ目は「人の気持ちを組む心」です。「人の気持ちを組む心」とは、困っている人の気持ちを察して手伝うことです。清掃中、人が困っていたら、周りの人が察して手伝いに行き、清掃作業の効率を上げましょう。

このように世羅西中学校では自問清掃に取り組み、「自主性や主体性を高める」ことを、自問清掃から学びさらに日常生活へと広げようとしています。全校生徒が自問清掃の目的を理解し、自ら誇れる、そして世羅西中学校の誇れる自問清掃にしていきたいと思います。